



広い心を持ち、生き生きと

第14代校長 芝原 正文

1 学校教育目標

校訓「自主・協同・勉学」にのっとり、望ましい校風の継承と創造に努める感性豊かな生徒の育成をめざす。

2 研究指定・研究大会

(1) 平成5年3月20日、文部省指定生徒指導推進校(2か年)として「自主・自律性を基盤とした感性豊かな生徒の育成―校則の見直しと自己決定の場の設定を通して―」について文書発表を行う。

(2) 平成5年4月1日、「たくましく生きる力を育てる推進事業」県教委指定校となり、平成6年2月25日業務実績報告を完了。

(3) 平成6年10月13日、第23回徳島県中学校道徳教育研究大会の会場となる。

①研究主題「人間としての生き方を自覚し、豊かな心を育てる道徳教育」

②公開授業 1年：水口・中川，2年：林・澤井，3年：木下・山田の6教諭

向かおう二十一世紀に 広い心を持ち、生き生きと

卒業生の皆さん、おめでとう。心から卒業をお祝いいたします。皆さんは、めでたく義務教育の9か年の全課程を修了しました。4月からそれぞれの道に進みますが、前途が希望あふれ栄光に満ちたものになることをお祈りします。皆さんは、私が立江中学校に赴任した直後、新入生として迎えた生徒です。言いかえれば、本校で3年間共に歩んできたこととなります。今も皆さんのにこやかな笑顔やべそをかきそうな顔が目に浮かんできます。入学以来、私たちの期待通り成長し、学校生活は模範的なものでした。各教科の学習に真剣に取り組み、部活動では技術と体力の向上に励むとともに、協調の精神を養いました。文化祭では素晴らしいアイデアとパワーで、立中に新風を吹き込んでくれました。生徒会活動では、立中生はいかにあるべきかを深く考え行動に移しました。また、草花の栽培を通して自然を愛する心を培い、育てた草花を諸施設に贈り、ボランティア協力校として厚生大臣より表彰されました。このように、皆さんは誠実で温厚な内にも気力を充実させ、積極的に活動し、立中の望ましい校風の継承と創造に努力してくれました。

さて、現代社会は急激に変化しています。学校においても五日制、校則の改定等大きな変化がありました。本校では、この機会を皆さんの成長に結びつけたいと考え、平成4・5・6年度と研究指定を受け、「自主・自律性を基盤とした感性豊かな生徒の育成」「たくましく生きる力を育てる推進事業」「人間としての生き方を自覚し、豊かな心を育てる道徳教育」に取り組み、あらゆる場面で皆さんに主役として活動してもらいました。皆さんは、それによく応えてくれたと思っています。日頃、私が皆さんによく話した言葉は「広い心を持ち、生き生きと」です。他人のことも思いやる豊かな心を持ち、自主・自律性を発揮し、何事にも前向きに取り組む生徒になって欲しいと願っていたからです。大人になっても同じ気持ちを持ち続けてもらいたいと思います。

最後に一言、21世紀を迎えたとき、最も若い成人である皆さんの前途のご多幸をお祈りし、大いなる飛躍を期待いたします。

なお、この原稿につきましては、立中新聞第34号(平成7年3月15日発行)の内容を活用させていただきました。立江中学校が閉校になることはたいへん寂しい気持ちでいっぱいですが、その寂しさは新しく開校する新中学校への大きな期待に変えていきたいと思っています。